

1	主題：「医療・保健・福祉関係者と連携した災害訓練の取り組み報告」
	副題：～在宅人工呼吸器使用難病患者の停電シミュレーションから見たこと
部 門：	<input type="checkbox"/> 施設 <input checked="" type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 地域包括ケア <input type="checkbox"/> 市民活動
事業所種別・名称	社会福祉法人悠々会 ケアラボもりの悠々園・訪問看護ステーション悠々園
発表者：津田 真理子	アドバイザー：
共同者：谷中 美里	
電 話：042-709-3288	e-mail：houkan@yuyuen.com
FAX：042-709-3289	URL：
今回の発表の事業所やサービスの紹介	「ケアラボもりの悠々園」は町田市森野で居宅介護支援事業所として2024年5月に開所いたしました。在宅医療を中心とした既存サービス提供はもとより、サスティナブルな地域医療、介護福祉のあり方を関係者が集まり研究開発する機関でありたいとの思いから「ケアラボ」と名付けました。

<p>《1. 研究前の状況と課題》</p> <p>近年、毎年のように大規模な災害が起きており、災害時の在宅療養者への支援も重要なテーマである。今回は、在宅で人工呼吸器を使用しながら生活する利用者と家族が多岐にわたるサービスを受けながら当事者と支援者が災害時にどのように連携するか、紙面上の空論だけでなく実際に行動し見えてくるものを捉え、備える準備が必要と考え、災害訓練を実施した。</p> <p>《2. 研究の目標と期待する成果・目的》</p> <p>①災害時個別支援計画の読み合わせ、訓練によって役割分担の確認をしながら、災害時の行動や医療機器の取り扱いを習得する。</p> <p>②自主防災の意識を高めることができる。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>【対象者】ALS60歳代女性、要介護5で夫と生活。気管切開にて常時人工呼吸器を使用。</p> <p>【企画】家族・支援者の意見を踏まえ、ケアマネジャーと保健師で訓練案を作成。その後、支援者から意見を募った。修正した訓練案を患者・家族に説明し、実施希望に至った。</p> <p>【内容】設定は「地震により突然の停電発生、家屋に損壊がなく在宅避難を要す状況」。参加者は18名（10機関）。自宅の電気を消すことで停電を再現し、安全確認までの一連の動きを確認した。安全確認においては、往診医がフィジカルアセスメントについて、人工呼吸器業者が機器の取り扱いについて説明。また、非常</p>	<p>用電源が不足した場合を想定し、蘇生バッグを3分間押し続ける体験を実施。</p> <p>《4. 取り組みの結果と考察》</p> <p>停電再現時夫は適切に行動がとれていることを確認できた。日頃の積み重ねの成果である。</p> <p>介護職員から緊急時を想定し医療機器の取り扱いを学ぶことができよかったと反応があった。介護職員は長時間ケアに関わっていることから、訪問中に災害に遭遇する可能性は高い。医療職から直接説明を受けたことで、家族同様に定期的な訓練が必要であることを共通認識できたことは大きな成果である。今回の蘇生バッグの使用は体験だったが、実際使用している様子をデイサービスにて見学できることになった。多職種の連携もこの災害訓練の成果である。</p> <p>《5. まとめ、結論》</p> <p>災害時、在宅人工呼吸器患者は移動が困難な状況が想定されるため、自助力を強化し在宅避難が可能な環境を整えることが必要である。</p> <p>災害時対応において、関係者が意識を共有し、安全な行動がとれるよう、日頃のケアの中に訓練を取り入れることが必要と分かった。</p> <p>《6. 倫理的配慮に関する事項》</p> <p>なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。</p>
--	---